

連載企画【第9回】 「お墓」のはなし

お墓をキレイにしませんか？

～ お墓を諦めないでください～



有限会社 福井石材
代表取締役 福井 基紘

お墓参りに行かれていますか？

今年もお盆やお彼岸の際には、たくさんの方がお墓参りされているのを拝見しました。普段は1人の方も、いろいろな行事の時は、お孫さんやご家族と楽しそうにお参りされている光景を見ると、改めてお墓参りの良さを感じます。

新しいサービスが生まれています

先日、現在岐阜県に住んでいる方から、病気のため、豊川市にあるお墓へお参りに行けないし、後を見てくれる人もいないので、お墓を撤去してほしいと依頼がありました。よくある依頼なのですが、この方は遺骨を取りに行くこともできないので、宅配便で送って欲しいとのことでした。依頼者様が考えてくださった最善の方法だと思ったのですが、私はどこか遺骨を粗末に扱ってしまっているような気がしたので、結局、遺骨は私が依頼者様のお宅まで配達させていただきました。

しかし、世間ではこういった場合どうしているのか気になったので、調べたところ『送骨サービス』なるものを見つけました。このサービスは、特定のお寺や施設が行っているもので、問い合わせると契約が進むと、段ボール箱等が送られてきて、その中にお骨を入れて送り返すと、施設が永代供養墓等へ納めるというものでした。

人がなくなって燃骨した後に、このサービスを使えばお墓も要りません。昨今の核家族化や血縁関係の希薄化などの家庭環境の変化から出てきたサービスだと思います。

お墓を諦めないでください

今後お墓がどんどんなくなっていってしまうのかといえば、私はそうではないと思います。確かに一人っ子の家庭や、お子さんがいない家庭は増えています。しかし、後継者がいないからお墓は建てられない、といえばそうではありません。実際、私が受けた依頼でも、お子さんはいないが、亡くなった奥様のために、ぜひお墓を建てたいという方がおられました。その方は、親戚に相談して、姪っ子が後を見てくれるということで、無事にお墓を建てることができました。

お墓は個人が生きた証です

家族体系が変化し、お墓に対する考えも変わってきて、墓じまいや最初からお墓は立てないという選択もあると思います。

しかし、お墓は個人が生きた証でもあり、残された方々の心のより所でもあります。お子さんがいなければ、親族に相談、血縁関係になくてもお墓は守っていきます。



こうして、これからも“お墓参り”という尊い文化は、続けていっていただきたいと思っています。ご先祖様は、きっとあなたを守ってくださいます。